

平成 18 年度 施政方針

平成 18 年 3 月町議会定例会における町長の施政方針を、要約してお知らせします。



「周防大島町」として誕生以来、皆様方の力強いご支援ご協力を賜りながら、一年半を迎えることができました。この度の合併は、私たちが過去に経験したことのない非常に厳しい社会経済情勢の中で、大島郡四町の生き残りを賭けた決断であったと考えております。今後一層、スピード感を持って強力に行政改革を進め、効率的な行政体制を実現し、財政の健全化を図ることが緊急かつ最重要課題ととらえ、全力で取り組んでまいりる所存であります。

その実行のため、新町初の「行政改革大綱及び実施計画」に基づき、五年間の「集中改革プラン」を作成いたしました。その要点を申し上げますと、先ず総人件費の抑制であります。総務省の示した新地方行革指針を大きく上回る、今後五年間で四十三人の純減を掲げ、簡素で効率的な行政体制の構築を目指します。

職員の給与についても、住民に対する給与情報等の公表や、人事院勧告を踏まえた給与構造の抜本的な見直しに取り組んでまいります。また職員数の削減を視野に入れた組織機構の見直し再編をスピード感、柔軟性を持って進めてまいります。

さらに新たな町づくりの実現のため、その根本指針となる総合計画の基本構想を作成いたしました。平成十八年度から十年間を計画期間とし、元気のある町づくり、にこにこのある町づくり、安心のある町づくりの三点を掲げてまいります。

今後とも更に厳しくなる財政状況の中から、平成十八年度当初予算は、新しい周防大島町の礎を構築する予算と位置付け、事業全般について必要性、緊急性の観点から総点検を行いました。その上でコスト意識と効率的な実施手法の徹底を図り、行財政改革を着実に進め、限られた財源の有効活用を努めるとともに、歳入の確保対策にも配慮した予算編成を行いました。

私の永年の政治理念であります「町民こそ町づくりの主人公」であるとの思いに立ち、この町に暮らす喜びを確かなものとするため、「元氣 にこにこ 安心で二十一世紀にはばたく先進の島」のなおい層の実現に向けて、町政を推進してまいります。



←リサイクルセンターと最終処分場建設事業

平成 17 年度から 3 カ年計画で旧橘町西安下庄地区に、処理能力 1 日 8 t のリサイクルセンターと埋立容量 16,000 m³の最終処分場を建設しています。

↓大島斎場建設事業

斎場施設では通夜、葬儀、法要などが行え、平成 18 年度中の完成予定となっています。



↑東和庁舎と星野哲郎記念館
庁舎部門と記念館部門・共用部門からなる計画です。

※図は完成予想図